



令和4年度(2022)京都市立紫野高等学校経営方針

令和4年4月1日

【スクールミッション】

- 多様性を認め合い、他者とともに新たな価値を創造することを大切にする学校であり続ける。
- 地域から全国へ、さらに国外へと連携を広げ、京都から世界につながる学校であり続ける。
- 自らルールを作り自ら律することで、生徒一人ひとりが自由を体現できる学校であり続ける。

【教育理念(校是)】 『自由と規律』 『知性と創造』 『参加と協力』

(1) 学校教育目標

『一步踏み出す Global Citizen』

【育てる生徒像 グラデュエーション・ポリシー】 普通科・アカデミア科共通

- 自由とそれに伴う責任を自覚的に引き受け、取るべき行動を自身で判断して実行に移すことができる。
- 習得した知識や技能を結び合わせて視野を広げ、新たな知見や課題解決策を生み出すことができる。
- 社会の多様性や習慣・文化・価値観等の異なる他者を理解し、協働して合意形成することができる。

さらにアカデミア科は

自由闊達な議論を通じて新たな発見をする体験を尊び、豊かな教養を深めることができる。

(2) 重点目標

- ① 教育者としての職責を自覚し、常に自己研鑽に努め、働き方改革を推進
 - ア. 多様な価値を認め協働する未来社会の担い手の育成に向け、使命感を持って一丸で取り組む。
 - イ. ICTの有効活用による校務の効率化、部活動ガイドラインに基づく適切な休養日や練習時間の設定など、学校における働き方改革を推進し、より一層の教育の質の向上に努める。
 - ウ. 教職員個々の課題解決を目指した校内研修の充実を図る。
 - エ. 持続可能な開発目標(SDGs)の理念を理解し、国際交流・地域連携などの取組を推進する。
- ② 育てる生徒像の実現のため、指導と評価の一体化を目指した授業改善を推進
 - ア. 新学習指導要領における新しい3観点による評価を記録する機会を設けることを通して、各教科・科目の指導と評価の一体化をより一層推進し、生徒の成長に主眼を置いた授業改善を図る。
 - イ. 教科指導や特別活動など教育活動全般において、生徒の自主性や創造性を最大限に高められるよう活動内容を充実させる。
 - ウ. 正解が一つではない問いに対し、習得した学力をもとに創造力を存分に働かせ、納得解を導き出すことができるような探究型学力を育てる。
 - エ. 一人一人の生徒を徹底的に大切にするという本市理念の下、多様な生徒に丁寧寄り添い、スクールカウンセラー等の専門職と連携し、個に応じた適切な支援や指導を組織的に行う。
- ③ 「地域社会に愛される学校」を目指し、教育活動等の取組を情報発信し魅力ある学校づくりを推進
 - ア. 教育活動について、教職員による自己評価や生徒・保護者による学校評価アンケートを実施し、目標の達成状況や取組状況について検証を行い、改善を図る。
 - イ. Global Citizenship IやGAP(Global Action Program)などの探究活動や部活動等の活動報告、国際交流活動などの最新情報を積極的に外部にホームページや説明会で発信する。
 - ウ. 地域の小中学校とより一層連携を深め、管理職を中心に交流や共同学習の場を積極的に設ける。
 - エ. 施設設備の点検を日常的に実施するとともに、自然災害などに適切に対応できるよう危機管理体制を整備し、生徒の安全・安心な学校生活の保障と地域の信頼に応える学校づくりに努める。
- ④ 「豊かな人間性」の涵養
 - ア. 美しい清らかな心と高い志を持ち、国際社会の発展に貢献できる人材を育成する。
 - イ. 挨拶や清掃の励行、交通マナーの向上に努めるなど社会規範を遵守させるとともに、基本的な生活習慣を確立させ、生徒の主体性と社会性の育成を目指す。
 - ウ. 多様な他者と共に生き、学び合い、広い視野と豊かな感性を働かせる人材を育成する。
 - エ. お互いの価値観を認め合う感度を高める道徳教育を、推進教師を中心に教育活動全体を通して推進する。